

アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

残念ながら、平成30年3月31日をもって、中国分スポーツ広場は廃止となります。

2018年、平成30年がスタートして、あっという間にひと月が経ってしまいました。**遅ればせながら、本年もよろしくお願いいたします。**

平成29年度の4種委員会主催の主要行事も、あと二つ。3月3日に行われる「第21回行徳ライオンズわんぱくリーグサッカー大会」と、3月4日に行われる「2017シャポーカップ 6年生以下の部決勝及び閉会式」を残すのみとなりました。

南部支部地域、総武支部地域の小学校で行われる「わんぱくリーグ」。ジェフユナイテッド市原・千葉の開幕戦の前座試合として、フクダ電子アリーナで行われる「シャポーカップ決勝」。会場は小学校の校庭とフクダ電子アリーナ。大人から見ると会場のグレードは全く違いますが、低学年の子どもたちにとっては、小学校の校庭に作られたピッチは、高揚感を高める最高の舞台に見えることでしょう。また、もちろん決勝に残った2チームは、フクダ電子アリーナのフルピッチを満喫してほしいと思います。

皆様のご協力で、子どもたちが、大好きなサッカーに興じられるようにしたいと存じます。ご協力の程、どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて「**子どもたちの高揚感を高めるグラウンド**」という視点では、誠に残念ながら、子どもたちが13年間に及び慣れ親しんできた、「中国分スポーツ広場」が平成30年3月31日をもって廃止となります。

少し振り返ってみますと「中国分スポーツ広場」は平成17年4月に開設されました。人工芝のピッチは今でこそ、近隣他市に多数設置されていますが、13年前は市の公共施設としては全国的にも珍しい先駆的な環境でした。現在近隣他市にある同様の施設は本市の追随と言っても過言でないほどです。

市川市サッカー協会第4種委員会としましては、個人登録するすべての子が年に1回は「中国分スポーツ広場」で練習かゲームができるようにと、各支部に使用可能日を割り当て、日程を調整して使用してきました。個人登録する選手は毎年約3000名おりますので、**この13年間で、延べ35000名**を超える選手が恩恵を預かったこととなります。

市は廃止となる理由として、「中国分スポーツ広場」が全て借地であり、**地権者に返却しなければならなくなった**ことを挙げています。市が「中国分スポーツ広場」を買い取ればいいのですが、莫大な費用が必要であり返却せざるを得なかったそうです。

仕方がないこととはいえ、近隣他市が人工芝グラウンドを多数新設していることを考えると、新しいのを作るのは無理としても、減らすとは…。

「中国分スポーツ広場」ができる以前は、市川市には小学生年代の児童が主に使用することを見越した、そしてもちろん芝生の施設などありませんでした。今と同じように国府台陸上競技場内にサッカーグラウンドはありましたが、年に数回、松木杯等の大会で使用するだけでしたし、ピッチの質も一応芝生とはいえ土になってしまっている部分も多く、総天然芝と呼ぶには程遠いものでした。

大きな転機が訪れたのは、前々市長の千葉光行氏が市長になられてからです。氏は、市川市サッカー協会の3種の行っている中学生のブラジル遠征事業や、4種の行っている小学生のドイツ遠征事業に大きな理解を示してくださるとともに、海外に比べて日本のサッカー事情、特にグラウンド環境の脆弱さにも深くご理解くださいました。

「サッカーは芝生の上でやるスポーツである」これはサッカー先進国では当たり前のことですが、日本では難しいことと諦めていました。しかし、氏が市長になられてからは人工芝の「中国分スポーツ広場」が新設され、さらに「市川市スポーツ振興基本計画」の策定に伴いスポーツに関する環境整備が加速的に進み、市川市サッカー界の念願だった国府台陸上競技場の人工芝化も実現されました。氏のスポーツに対する見識の深さに感謝するとともに、行政のトップの影響力の強さを改めて実感させられたのを覚えています。

今回、市川市は「中国分スポーツ広場」の廃止に伴い、平成30年度に向けて、下記の2点を約束して下されました。

- (1) 国府台陸上競技場に、少年用ピッチが2面できるように、ライン等の整備をする。
- (2) 国分調整池多目的広場を再整備するとともに、少年用ピッチが2面できるようにし、ゴール等を整備する。

(1)については、今年度内にラインが引き終わる予定で、平成30年4月から、少年用ピッチが2面使用できるようになっています。(北ライオンズ杯から使用の予定)また、(2)については、現在再整備が急ピッチで行われており、なんとか平成30年4月に間に合う予定ですが、少年用のゴール等の付属設備は平成30年度の市の予算で購入のため、年度当初は間に合わないとのことでした。

このように市川市は、「中国分スポーツ広場」の廃止に伴い、いわば代替えとして、4種年代の子ども達のために、スポーツ課を窓口として、市として実現可能な事に取り組んで下さっています。市川市の**財政が大変厳しい中、大変ありがたく思っている**ところです。

しかし、4種の子どもの側に立って考えてみますと、国府台陸上競技場はサッカー協会としての使用枠がほぼ決まっており、4種だけ多く使用することはできません。また、国分調整池多目的広場も、再整備はして下さいますが、あくまでも土のグラウンドのままで、しかも1種のフレンドリーリーグ等が主に使用している施設であり、こちらも4種だけ多く使用することはできません。今までと比べると、**子ども達が人工芝の上で、サッカーに興じる機会は激減**することは否めないところです。

先日、2月11日に第4種委員会の主要行事である「市川市招待U-12女子サッカー大会」が「中国分スポーツ広場」で行われました。招待チームは、県内外の強豪女子チームばかりですが、我が市川FCレディースが見事に優勝を飾りました。なでしこジャパンの影響でしょうか、ここ数年、市川FCレディースの選手を含め、サッカーの上手な子が増えているなど感じました。また、人工芝の上で、小学生女子が**けがを恐れることなく、全力でプレー**しているのはいいなあと思いました。また、来年度はもうこのグラウンドはないのだと考えると、改めて大きな喪失感も感じてしまいました。

市の代替え策は代替えとして有りがたく感謝しつつ、やはり、人工芝のグラウンドの早期新設を声高に希望せざるを得ません。なぜなら子ども達は、自分達が「芝生の上でサッカーがしたい」と望んでいても、その声を届ける術がないからです。サッカーを愛する子ども達の一番身近にいる**私たちが、子ども達の代弁者**として、その声を届ける義務があると深く痛感した次第です。